こども
応援ネットワーク
埼玉

こどもの居場所づくり事例集

埼玉県　子供の居場所づくり推進事業

目次

ごあいさつ ―― 3
こどもの居場所づくりアドバイザーとは ―― 3
コロナ禍における子供の居場所 ―― 4
湯浅誠さん　全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長
東京大学先端科学技術研究センター特任教授　社会活動家
ネットワークで、子供も、大人も、支援者も、みんな笑顔に
埼玉県子ども食堂ネットワーク ―― 8
子供も大人もみんなが集う地域のおへそ
おへそ食堂 ―― 10
いつか始めたかった。やるなら、イマでしょ！
みな風こども食堂 ―― 11
子供も、高齢者も、外国人も…みんなが集う森の食堂
みんなの食堂 羽生の杜 ―― 12
休校中、学んで食べて遊んで、追いつく学習
熊谷なないろ食堂 ―― 13
変わる地域、家族の孤立、子供を核に地域のつながりを再生
とこ地区寺子屋 ―― 14
コロナ禍で高まるニーズ、フードパントリー
埼玉フードパントリーネットワーク ―― 15
スタートはフードパントリーから
幸手子育て応援フードパントリー ―― 17
遊びの力が、生きるチカラを育てる。プレイパーク
埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会　さぽれん ―― 18
「入間市に常設のプレイパークを」立ち上がったママたち
冒険遊び場いるぱーく ―― 19
県内トップシェアの業務用食材卸が応援
関東食糧 ―― 20
まずは毎月 100 袋の定期的なお米の寄付から
ヤオコー ―― 20
１つの企業が多角的に支援
アルファクラブ武蔵野 ―― 21
市内 21 小学校区すべてに子供の居場所づくりを目指して活動
こども応援ネットワーク Pine（パイン） ―― 22
こども応援ネットワーク埼玉 ―― 23

ごあいさつ

昨年から続くコロナ禍の中で、子ども食堂、無料塾、プレイパークなどの子供の居場所は、地域の子育て家庭等のセーフティーネットとしての役割が増すなど、その重要性がいっそう高まっています。

また、子供だけでなく、大人も学生も障害がある方も誰もが集えるみんなの居場所として、多くの役割が期待されています。

埼玉県では、これから居場所づくりに取り組む皆さんに、多くの好事例を紹介し、参考にしていただきたいと考え、毎年、県内のさまざまな地域で行われている先進的な子供の居場所づくりの取組を集めた「こどもの居場所づくり事例集」を作成しています。

今年度は、コロナ禍で子供の居場所活動が制限される中においても「子供たちとつながり続けるための活動事例」や、企業等による活動支援などの事例等、地域の状況やニーズに応じた多様な取組を紹介しています。

この事例集では、「こどもの居場所づくりアドバイザー」を利用して新しい子供の居場所を立ち上げた方も取り上げています。アドバイザーには、子供の居場所の運営者や衛生管理の専門家など、多くの団体・個人が登録されていますので、事例をご覧になって自分でも子供の居場所を立ち上げたい、関わってみたいと思われたら、ぜひお問い合わせください。

この事例集を通じて、それぞれの地域で創意工夫を凝らした、その地域ならではの子供の居場所が生まれ、活動が継続していくことを祈っています。

結びに、本書の作成にあたり、ご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

令和３年３月
埼玉県福祉部少子政策課長

こどもの居場所づくりアドバイザー制度とは

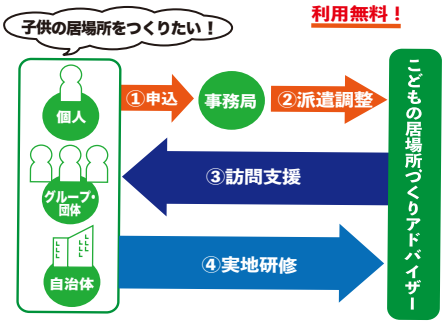
子ども食堂や無料塾、プレイパークなど、子供の居場所づくりに関する活動を行いたいと考えている方は多くいます。しかし、実際に立ち上げ、活動をする際には、必要とする子供たちに居場所の存在を知らせる方法やどのように活動資金や食材を集めるかなど、様々な課題が待ち受けています。

埼玉県では、子ども食堂や無料塾などの子供の居場所づくりの実践者や、食品衛生、栄養、広報、福祉制度、法律や資金等の専門家をアドバイザーに任命し、子供の居場所をつくりたい方のところへ派遣することで、立ち上げ期の課題解決の手助けをしています。

●子供の居場所を始めたい方に、身近な”先生役を派遣します”

・チラシやホームページづくりを学びたい
・子ども食堂の始め方がわからない
・子供の居場所の現場を見学したい
・衛生管理を学びたい　　など。

●アドバイザー派遣の流れ



コロナ禍における子供の居場所

コロナ禍では、子ども食堂など子供の居場所への期待がさらに高まり、子供の居場所が今まで以上に注目されることになりました。

そこで、県では、令和２年９月に開催した「広げよう！子供の居場所～こども食堂フォーラム」に、全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長の湯浅誠氏をお招きし、「コロナ禍において見えてきた子どもの居場所の役割と活動を継続するための秘訣」について、ご講演いただきました。その一部をご紹介いたします。

湯浅誠さん

子ども食堂はこんな場所

こんにちは。私、所沢市民なので、今日はこの会場に自転車で来ました。

世論調査によると、子ども食堂の認知度は８割だそうです。つまり国民の８割が聞いたことがある。

子ども食堂の第１号が出来たのが2012年ですから、わずか８年前です。

しかし、「行ったことありますか？」と聞くと、５～６％ぐらいにグーンと下がる。多くの国民にとって、聞いたことはあるが、行ったことはない、子ども食堂とはそういう存在です。

山口県宇部市にある子ども食堂では、１回に400人集まります。私が知る限り日本最大級です。月に２回開催されています。コロナ禍以前、この子ども食堂は、子供さんがいて、親御さんがいて、高齢者さんがいて、地域の方達が交流する場でした。

こういうのって大事ですよね。

昔、親父の実家に行くと、盆暮れは親戚一同が集まり、８畳間の襖をはずして３間ぐらいつないで賑やかに食事していましたが、そういう光景も、もうなくなりましたね。

自治会も活発じゃないし、子供会は解散しちゃった、なんて声もよく聞きます。商店街も寂しくて、ショッピングモールじゃ、長話したりしませんね。

地域から人々が集う場所が減って、随分寂しくなり、子供たちの声を聞かなくなりました。そんな中で、いま、世の中で、子ども食堂が広がっている。

行ったことのない人から「子ども食堂は食べられない子が行くところでしょ」とよく誤解されます。そういう方に、400人も集まると言うと「宇部市には食べられない子がそんなに多いのか」と思われるでしょうが、そういうことじゃありません。

誰でも行けるから、皆が来るんです。食べられる子もいれば、食べられない子もいる。お金持ちも貧乏もいる。誰でも行けるというのは、そういうことなんです。

もし食べられない子が来ていたら、もし課題のある子がいたら、「自分のできることをしたい」と思う皆さんが運営しているのが、子ども食堂です。

むすびえ「あっちにも こっちにも こども食堂」
https://musubie.org/about/acchinimo/

あっちにも こっちにも 子ども食堂を

福岡県の八女市で、「コロッケ事件」というのがあったそうです。

子ども食堂でコロッケを出したら、小学校５年生の男子が「何これ？」と言った。その子がそれまで、コロッケを見たことも食べたこともなかったことを、子ども食堂の人たちが知ったんですね。そこでどうするか？「じゃあ、次はメンチカツ出してみるか」となった。学校給食だと簡単に献立は変えられないけど、子ども食堂ならできる。

家族旅行に一度も行ったことがない子がいた。「じゃあ、海水浴に行くか」。誕生日を家で祝ってもらったことのない子がいた。「じゃあ、盛大に誕生会やるか」と。気づいたら出来ることをしたい。つまらない思いをしている子を減らしたい。「私の好物は、子供の笑顔だから」みたいな方たちが、子ども食堂の運営者なんです。

こういう子ども食堂は、子供みんながアクセスできる場所に欲しいと思います。なので、小学校区に１か所は欲しい。

むすびえのホームページに「あっちにも こっちにも こども食堂」というページを開設して、「こども食堂マップ」という学区ごとに食堂がわかる地図を作りました。小学校は全国に約２万校ありますから、２万か所できると丁度いい。

このマップで見ると、埼玉県は県南にはそれなりにあるけど、県北は少ないことがわかります。所沢には13の子ども食堂がありますが、私の住む松井小学校区には、残念ながらありません。その北の牛沼小学校区には１か所ある。牛沼小の西の並木小学校区にはないが、周りにはある。「うちの学区にはなくていいのかな？」「うちにもあった方が、いいんじゃないの？」などと地元の人たちがマップを見て、ささやき合って、この０を少しずつ減らすことにつながっていく、そんな活用を期待しています。

コロナ禍でも「つながり続ける」

新型コロナウイルスの感染拡大による初めての緊急事態宣言後、私たちむすびえでは、全国の子ども食堂にアンケート調査をしました。

すると、９割が居場所を開けなくなっていました。ただ、半分くらいでは、食材を配布したり、お弁当を配ったり、配達したりしていました。

埼玉県では、たくさんの子ども食堂が食料品の配布などを行ってフードパントリー活動をしていましたね。

密な状況を避けられない子ども食堂が、スーパーなどの駐車場をお借りして、ドライブスルー方式で食料品の配布活動をやったりしたんですね。

普通、それまでの自分たちの活動が出来なくなったら、活動は休止ですよね。緊急事態宣言後、人が集まるイベントはほぼ中止、世の中はほとんど動いてなかった。

でも、子ども食堂の人たちは、活動形態を変えて続けた。凄いことです。

コロナ禍で、地域の自主防災組織って、何か活動されましたか？動いていたってほとんど聞いたことがありません。なんで動

かなかったのでしょうか。これは自然災害じゃなかったからですよね。課題別で考えたら、こうなるんです。

しかし、子ども食堂の人たちは活動していた。

休止でよかったにも関わらず、形を変えてまで、活動をし続けた。これは何を表しているかというと、課題別で人を見ていないということです。

課題別で人を見ないで、「つながり続ける」意思を優先させる人たちの活動だった。

緊急事態で、学校が休校になっちゃった。給食がなくなる。

「あの子どうなる？」「あの家庭どうなる？」と考えると、単純に活動を辞めるわけにはいかない。なので、食材やお弁当配布などと形を変えて子供たちとつながり続けた。子供たちと文通を始めた団体もいる。

子ども食堂の人は必ず言います。「うちは食べるだけの場所じゃありません」。学習支援教室の人は必ず言います。「うちは勉強を教えるだけの場所じゃないんです」。

“だけじゃない” に盛り込まれているのは「つながり続ける」ことだったんです。そのためには何でもやる。それは居場所の本質だと思うんです。

集まる応援。「こういう場所が必要」

子ども食堂は、課題別の頭でみると、よくわからない場所になってしまいます。いま、多くの人たちは課題別で物事を見ることに慣れてしまっています。役所の中で所管がなかなか決まらなかったのは、その理由が大きいのではないでしょうか。

もし民間でやっていたら大変だから、行政の政策にしましょう、税金を入れましょうという話になると、子ども食堂は第２学童になってしまうでしょう。学童保育に15歳の子供は行けない。50歳の方、90歳の高齢者、行ってないですよね。

いまの世の中、課題別の発想をする人たちが大半なので、どこかの課題に収まらないと皆の気持ちが落ち着かなくなってる。でも、そう考え始めると、子ども食堂の良さを失うことになる。

人を縦にも横にも割らず、多くの人たちが集えて、０歳から100歳までが居られる、ごちゃまぜな場所、こういう居場所の大切さを、市民全体、国民全体に広めていければ、皆で応援することが出来ます。「こういう場所が必要だよね、いまの世の中には。」というような理解を広めていくことが何よりも大事です。コロナ禍において、子ども食堂は、今まで以上に人々の理解を得やすい状況になっています。なぜなら、このコロナ禍で、そういうことって大事だよねっていう意識が一段と広がって深まって、たくさんの人たちが応援してくれているからです。イオングループさんとか、メルカリさんとか、P&G、SMAP で活躍されていた方とか、サッカーの長友佑都さん…多くの企業や個人の方が活動を支えてくれています。

無縁社会に、市民が選び広がる解決策

2010年に私たちの社会を表現する言葉として登場した「無縁社会」は、家族や友人、地域などに、つながり続けようとする人がいなくなったことを表現した言葉です。

2012年の子ども食堂の誕生は偶然じゃありません。この10年、ずっと言われていた無縁社会を変えていこうと、お互い示し合わせてもいないのに、全国に広まりました。地域における居場所の大切さを肌で感じている人が各地にいるということです。

私は、一般市民の方たちが、これを選び取ってるって言うことが、とても大事だと思います。

少子化、高齢化、人口減少、財政難、災害多発。私たちの社会は課題先進国と言われます。コロナ以前から様々な立場の人たちが、いろいろな解決策を考えてきた。でも皆さん、国から、これが解決策だって押し付けられたいですか。コンサルの専門家が来て、「これが解決策です。」と言われたらどうですか。なんか、それって嫌な感じになりませんか。

解決策って、誰が考えるんですかね。

私は、市民の皆さんが、全国津々浦々ですでに選び取ってる子ども食堂、居場所は、ひとつの立派な解決策だと思っています。

人々が現に選び取り、実践していること以上に強い証拠は無い。

つながり続ける居場所づくりをやりたい人が、世の中にいっぱいいるのだから、その人たちが、やりやすい環境を整えていく必要があるでしょう。これはコロナ禍でなくても私たちの社会に必要なことなんですから。

コロナ禍で見えてきた子供の居場所の意義

生きづらさを抱える人が、今、大勢います。これは無縁社会が生み出したものです。自分に関わり続けようとしてくれる人がいない、という感覚を持っている人たちがたくさんいる。そのことに直接手当をしているのが、子ども食堂や地域の居場所です。

生きづらさに対する、最高の処方箋です。

一人ひとりが元気に暮らすためには、こういう場所がもっと地域に必要です。子供だけじゃない、高齢者だけじゃない、いろんな人たちが関われる場所が必要なんです。

そのために、事業者さんも含めた地域の人たちに、皆で盛り立てていこうと理解が広まって行くことを願っています。

コロナ禍は、私たちにマイナスとプラス両方の面をもたらしました。

マイナスは、いろんな活動が制約されて居場所が開けなくなってしまったこと。

プラスは、コロナ禍を通じて本当に暮らしに大事なものは何なのか、地域で人々が健全に暮らすために必要なものは何なのか、どんな情報が足りていないのか、私たちの社会にとって大切な解決策は何なのかを、垣間見させてくれたことだと思うんです。

この教訓をきちんと生かして、2020年代を過ごしたいと思います。

2020年という節目の年は、オリンピックの年じゃなく、コロナの年になった。誰も望まなかったけれど、転んでもただでは起きない、大変な状況の中でも教訓を引き出し、生かしていく、人としての粘り強さを示せた、そんな年になったのではないかと思っています。

皆さんそれぞれが、出来ることをして頂くことを願い、私の話を終わります。

ありがとうございました。（文責：埼玉県）

ネットワークで、子供も、大人も、支援者も、みんな笑顔に
埼玉県子ども食堂ネットワーク

コロナ禍で始まった、みんなを笑顔にする企画

新型コロナウィルスの感染が拡大する中、会食を前提とする子ども食堂は、次々と休止に追い込まれました。

しかし、窮地とも思える状況下で、県内の子ども食堂140団体が加盟する「埼玉県子ども食堂ネットワーク」では、「笑顔応援企画」と称し、何とか子供たちとつながり続けたいと、様々な活動を行いました。

支援する人、寄付する企業など、地域の多様な主体が協力しあい、みんなの笑顔を応援する取り組みになりました。

お弁当配布、食材配布から笑顔応援企画へ

感染拡大に伴う最初の緊急事態宣言下では、学校が休校になりました。子ども食堂を通じて出会った子供たち、とりわけ給食を日々の食の支えにしていた子供たちや、困難な環境で家庭に居場所がない子供たちを心配する声が、子ども食堂ネットワークの関係者の間で高まっていきました。

会えない子供たちを思い、心配ばかりが募る中、食堂で作ったお弁当を配布する活動を、一部の食堂が始めました。寄付いただいた給食用の食材なども活用し、お弁当に限らず食材や食品を配布する子ども食堂も出てきました。

食堂が開けないという状況で始まったお弁当や食品の配布は、やがて県内各地に広がり、それぞれの子ども食堂が創意工夫しながら皆に笑顔を届ける「笑顔応援企画」へと発展していきました。

▲IKEA からのおもちゃやキッチンなどの
提供品を仕分けるすエリアキャプテンたち

倉庫と物流の整備という課題を克服

個人寄付とは異なり、企業の社会貢献としての支援や寄付は、そもそも規模や量が大きく、適切な保管や運搬、提供、協定の締結など、難しいハードルがいくつもありました。

そこで同ネットワークでは、県内を14エリアに分け、各エリアごとに核となる中間拠点を設けるとともに、各拠点に冷凍庫などを急ピッチ

▲プチパントリーに提供された
お菓子や入浴剤、牛乳や冷凍食品など、
この日は 24 トンの仕分け

写真：埼玉県子ども食堂ネットワーク Facebook から使用

で配備するなどして、食材の保管問題を克服。大型冷凍庫や冷蔵庫は、埼玉県社会福祉協議会や埼玉西武ライオンズから寄贈いただくことができました。

また、食材を提供してくれた企業が拠点まで輸送支援もしてくださるなど、支援の輪が広がっていきました。

▲埼玉県社会福祉協議会から大型冷凍庫 11 台寄贈の贈呈式

増え続ける、支援を必要とする子育て家庭

子ども食堂が始めたお弁当配布や食材配布では、これまで食堂を利用していなかった経済的に厳しい家庭や、コロナ禍で苦しい状況に追い込まれてしまった家庭などが利用してくれるようになり、新たな出会いにつながっています。支援を必要としている家庭にとって、県内の子ども食堂への期待は、ますます高まっています。

◀▲ケンタッキーフライドチキンから冷凍チキンなどの寄贈を受けて食堂へ

●本間香さんの思い　埼玉県子ども食堂ネットワーク代表

どなたでも来ていただける、活躍できる場にすることが大切です。誰もが助けられる、癒やされる、地域のみんなが集える、それが子ども食堂です。あなたにも、必ずできることがあります。ぜひ一緒に広げていきましょう。

【名　　称】（一社）埼玉県子ども食堂ネットワーク
【所 在 地】さいたま市緑区原山 3-20-9
【問い合せ】TEL：048-789-7340（本間）
E-mail：saitamakodomoshokudo@ai-kenchikukoubou
Web：https://saitama-kodomoshokudou-network.org

子供も大人もみんなが集う地域のおへそ おへそ食堂

子供も大人も、みんな集う地域のおへそ

おへそ食堂は、朝霞市産業文化センター内の café COZY を会場に、子供と一緒に、主に地元の食材を使って料理を作りながら、子供も大人も地域の家族としてつながる「おへそ」のような場所を目指して、2016年に始まりました。安心安全な食の提供に始まり、食材の配布や畑活動、フードロス対策、ものづくり、音楽活動……と、現在その活動は多岐にわたっています。

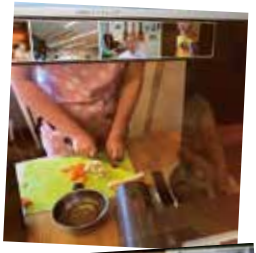
SNS での交流から、オンライン子ども食堂へ

新型コロナウィルスの感染拡大で、休校や給食の中止が続く中、おへそ食堂ではドライブスルー方式でのお弁当や食材配布にいち早く取り組みました。自粛期間中の活動をブログや Facebook、Twitter、Instagram などの SNS で発信したところ、提供されたお弁当や食材を自宅で嬉しそうに食べる子供たちの姿が、お礼とともに次々と返信されてきました。

こうした SNS 時代だからこそできる温かいコミュニケーションを目の当たりにし、オンラインを活用した子ども食堂を始めました。オンラインでつながりながら、配布したお弁当や食材を、食べたり調理したりすることで、感染リスクから解放された形で画面越しの会話がはずみます。

形を変えてもつながり続ける

直接会えない、外出できない日々の中で、SNS などインターネット環境を活用し、つながり続ける方策を見出したおへそ食堂。この間は、コロナ禍においては、これまで出会った子供から高齢者まで、地域の多様な人々が、顔がわかり、声を掛け合え、いざという時に頼り合えることの大切さ、そうした関係づくりの重要性をより感じています。



▲配布した食材で作ったメニューの感想報告をかねオンラインで交流

●名取直子さんの思い　おへそ食堂代表

居場所では、自分はどうありたいか、何故やりたいのか、を考えています。段取りを気にするより手伝ってくれる人を見つけて、できることから進めていけば、道はひらけると思います。こどもの居場所づくりアドバイザーの一人として、いつでもお手伝いさせていただきます。

【名　　称】おへそ食堂
【開催日時】毎月第 4 金曜日
【開催場所】朝霞市産業文化センター内《トモソダチ café COZY》(埼玉県朝霞市浜崎 669-1)
【利 用 料】子供：無料　大人：300 円
【申し込み】メールにて予約
【問い合せ】TEL：048-485-9923　E-mail：cozy.kouza@gmail.com
Web：https://ameblo.jp/team-cozy/theme-10099685519.html

いつか始めたかった。やるなら、イマでしょ！ みな風こども食堂

コロナ禍、真っ只中のスタート

２０２０年夏、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの飲食店が営業自粛や休業し廃業に追い込まれるところも出始めたころ、さいたま市中央区で営業していた沖縄料理店、カフェギャラリー南風 蔵の家も、不安の真っ只中にありました。しかし、いつか子ども食堂を開きたいと考えていたオーナーの山田ちづ子さんは、閉店するぐらいならと、お弁当配布からの子ども食堂の開催を英断しました。

温かい地域、続々とボランティアが

これまでも、障がい者の皆さんの手作り品の販売、子供たち向けロボット教室なども行ってきた南風 蔵の家が、コロナ禍で、子ども食堂を始めたと聞きつけて、続々とボランティアの申し出が寄せられました。地域の温かさに支えられながら、有り余るほどの支援をいただき、月２回の定期的なお弁当配布のほか、夏・秋のお祭り、丼祭りなどのイベントも行い、７月から11月まで10回を超える活動を行いました。

困窮家庭とつながる新たな挑戦

何回か活動するうちに、より支援を必要としているご家庭ともつながりたいと考え始めました。そこで、児童扶養手当受給世帯やひとり親、生活困窮家庭を対象に、フードパントリーを開始しました。コロナ禍の冬、感染はいっそう拡大し、厳しい状況に置かれる人たちが増えています。子ども食堂とフードパントリーを車の両輪に、みな風こども食堂の新たな挑戦が始まっています。

▲清水さいたま市長も「みな風こども食堂」の秋祭りに来店

▲西武ライオンズ支援の丼祭りで「うなぎ丼」100 食

●山田ちづ子さんの思い　みな風こども食堂代表

学校や家庭で怒られたり困ったり何かあったとき行けるところ、一緒に楽しんでホッとする場でありたい。何かを教えるのではなく、子供がやりたいことを自分で学べるようにサポートしたい。第三者だからこそできることを大切にするのが居場所だと思います。

【名　　称】みな風こども食堂
【開催日時】毎月第２・４土曜日　17:00~18:30（当面はお弁当配布）
【開催場所】カフェギャラリー南風 蔵の家（中央区本町西 2－2－24）
【利 用 料】子供：無料　大人：500 円
【申し込み】電話で事前予約
【問い合せ】090-4600-1027（山田）
E-mail：chizuko.minakaze.0913@gmail.com
facebook：https://www.facebook.com/minakaze.kodomosyokudou/

子供も、高齢者も、外国人も…みんなが集う森の食堂
みんなの食堂 羽生の杜

森づくり × 子ども食堂

弱者に寄り添い社会課題に向き合った活動家、故・小田原紀雄氏の志を引き継ぎ、1,500坪の広大な森の再生と共生社会を目指し活動する NPO 法人羽生の杜。ここでは、2019年から子ども食堂に取り組んでいます。四季を通じて自然豊かな羽生の杜では、子供から高齢者、障がい者にも優しい自然環境の整備が、ボランティアによって進められ、地域の皆さんの心地よい居場所になっています。

▲森の中でザリガニ取り

子供だけでなく、みんなの居場所に

開始当初の食堂は、子供だけを利用対象にしていましたが、やがて高齢者の孤食問題や困っている外国人などそれぞれの地域に様々な課題があることがわかりました。そこでみんなで食卓を囲む食堂へと対象を拡大し、これに伴い名称も「みんなの食堂」に変更しました。

2020年４月からは、新型コロナの感染拡大に伴い、フードパントリーやお弁当の配布に活動を変更していますが、自然の中、森の中にお弁当を食べるためのスペースを設けるなど、できる形で活動を続けています。

▲野外での食事風景（みんなの食堂）

世代や文化を超えてつながる

森づくり同様に、食堂の活動も多くのボランティアや協力者に支えられています。世代を超えて、文化も超えて集い、食卓を囲む食堂は、子供にとどまらず地域のいろんな人が出会い、交流しながら、支え合う豊かさに気づける場として賑わっています。

●田村信征さんの思い　羽生の杜代表

活動を始めるまで子供たちとは全く違う世界にいたこともあり、今まで手探りでやってきました。それでもお困りの方々へ目線を向け、何が課題か問題意識を持てば、自ずとすべきことが見えてきます。迷うより、まずやってみることをモットーにしています。

【名　　称】みんなの食堂
【開催日時】毎月第４日曜日　11:00~14:00（遊びと食事）
【開催場所】羽生の杜
【利 用 料】子供：100 円、大人：300 円
【申し込み】前日昼までに申し込み
【実施団体】NPO 法人羽生の杜（埼玉県羽生市桑崎 1331-2）
【問い合せ】090-3348-2149（田村）
E-mail：tamura.nobuyuki@cameo.piaia.or.jp
facebook：https://www.facebook.com/groups/hanyunomori

休校中、学んで食べて遊んで、追いつく学習
熊谷なないろ食堂

休校中のピンチを救った救世主

コロナ禍の学校休校や学童保育の利用制限は、仕事を抱える保護者、中でも低学年の児童を育てる親たちは頭を抱えていました。カフェを会場に子ども食堂を行っている熊谷なないろ食堂では、子供だけでステイ・ホームさせるには心配な小学校低学年児を主な対象に、休校中、終日、子供たちに食と学びと遊びを提供しました。

マンツーマンで追いつく学び

コロナ休校中の柔軟なこの対応に力を貸してくれたのが、普段から食堂を支えている地元の学生ボランティアたちでした。コロナ以前も宿題持参で食堂に来る子供たちは珍しくなく、学生が勉強を見るのは日常風景。午前中に勉強し、昼食を皆で食べて、午後はトランプやゲームで遊んで１日が過ぎていきました。

学校から大量の家庭学習が休校中に出されましたが、利用者が少ない食堂で、マンツーマンで勉強を見てもらえたことで、学習に遅れのあった子供が、周囲の目を気にせず、学年の最初から学び直すことができ、遅れを取り戻す好機にもなりました。

▲ボランティアさんと
トランプをして遊びます

弁当配布で広がる新たな出会い

学校再開後はお弁当配布を中心とした活動を続けていますが、障がいのある親や子供、赤ちゃんを抱えたお母さんなど、普段の食堂に足を運びにくかった地域の方たちと出会いが続いています。お弁当配布によって出会った新たなつながりで、after コロナの食堂再開はいっそう賑やかになりそうです。

▲午前中の勉強時間は個別で集中

●山口純子さんの思い　熊谷なないろ食堂代表

ボランティアさんや寄付などを通じて活動を支えてくださっている皆さんと協力しながら、これから子供の居場所を始めようという皆さんとも一緒に、お互いの良いところを持ち寄りながら、情報交換し、時には立ち止まって考え、力を合わせて活動を続けていきたいです。

【名　　称】熊谷なないろ食堂
【開催日時】月・水・金曜日　17：00～19：30　（当面はお弁当配布）
【開催場所】ごはん屋なないろ食堂店内（埼玉県熊谷市石原 1028-8）
【利 用 料】中学生以下：無料　高校生以上：200 円
【申し込み】事前申込不要、当日受付
【実施団体】ごはん屋なないろ食堂＆nanacafe
【問い合せ】048-577-8578　（山口）E-mail：sk.jinkennet@outlook.jp
https://www.instagram.com/nanairo_426/　https://twitter.com/kidsnanairo

変わる地域、家族の孤立、子供を核に地域のつながりを再生
とこ地区寺子屋

熱帯魚が泳ぐ子供の居場所

所沢市の民生委員さんが、熱帯魚などの観賞魚を販売する店舗の一角を提供し、2017年から始めた学習支援「とこ地区寺子屋」には、火曜日の放課後、10人ほどの地域の子供たちがやってきます。市内で最も古い小学校がある地区ですが、マンションが建ち始めた頃から、街の様子が昔と随分変わり、それに伴って、孤立する家族、孤独な子供たちの問題が浮上してきました。

思い思いに過ごせる火曜日の放課後

帰宅しても待つ人がおらず、家でポツンと過ごす子供たちの安全安心な居場所として開設し、民生委員仲間や退職教員、塾講師らの協力を得て学習支援の活動を続けています。

主に小学生が利用していますが、試験期間には中学生も顔を出します。火曜日の放課後２時間を思い思いに過ごせる場所としているため、勉強は強制しません。１週間の出来事をひたすらしゃべる子もいれば、宿題をする子、つまづいた学習を学び直す子など色々です。ボランティアの協力で個別指導が出来るので、学校のように他の子を気にせず、それぞれの子供たちの理解度に合わせて学習を支援することが可能です。

支え助け合う寺子屋のフードパントリー

コロナ禍での学校休校中には、食材配布の活動を始めました。児童扶養手当やひとり親家庭等医療受給者を対象に、13世帯ほどに食材を配布しています。困っている家庭をできるだけ早く見つけて、小さな困りごと、小さな悩みのうちに、支える、助け合える地域にしたい。寺子屋から、地域に暮らす人々のつながりが再生されつつあります。

▲書き初めの様子

●松尾光一さんの思い　とこ地区寺子屋代表

居場所づくりはハードルが高いと感じるなら、実際の活動を見学したり、実践者の話を聞いてみましょう。気の合う仲間を集めて、一緒に見学してから挑戦するのもいいです。成長した子供たちが地元を思い出してくれる居場所になれば嬉しいですね。

【名　　称】とこ地区寺子屋
【開催日時】毎週火曜日　16:00~18:00
【開催場所】松尾観魚苑　（所沢市御幸町 1-16-207）
【利 用 料】無料
【申し込み】予約不要
【問い合せ】TEL：04-2922-5655（松尾観魚苑　松尾）

▲学習の様子

コロナ禍で高まるニーズ、フードパントリー
埼玉フードパントリーネットワーク

食の命綱、フードパントリー

フードパントリーは、食料品などを企業や生産者、個人から寄付してもらい、必要とする人たちに無償で提供する活動で「食の命綱」とも呼ばれる活動です。

阪神淡路大震災や東日本大震災などの緊急災害支援で、食糧を集めて被災地に届けるフードバンクの活動が知られるようになりましたが、集めた食品を困窮家庭に直接配付する「フードパントリー」は、最近よく、耳にするようになった活動のひとつです。

ニーズの高まりに応えるために

新型コロナウイルスは、ひとり親家庭をはじめとする厳しい経済状況にある子育て世帯にも深刻な影響を与えています。

そうした中、日々の食料の心配を抱える家庭の増加に応えようと、次々とフードパントリー活動を始める団体が増えてきました。県内では子ども食堂や無料学習支援の活動団体がフードパントリー活動に取り組むケースのほか、フードパントリー活動から取り組み始める団体も増えています。

個人だけでなく企業や団体から提供された食品を、安全な品質を保った状態で必要とする人に届け、食べてもらうために、適切な衛生管理の下で保管・輸送するとともに、食品事故拡大防止のために利用者の連絡先を把握したり、転売防止にも努めています。

急増するフードパントリーをともに育てる

越谷で子ども食堂からフードパントリーに取り組み始めた団体が呼びかけ、越谷・深谷・加須の３つフードパントリーにより 2018 年に立ち上げられた「埼玉フードパントリーネットワーク」は、コロナ禍で急増した県内のフードパントリー活動の牽引役として貢献しました。

▲コロナ禍での食品配付の様子

活動の社会的な意義だけでなく、安全な食品の取り扱い方、運営ノウハウ、支援される人々に寄り添う提供方法やつながり作りなど、きめ細かな初期支援を展開し、2021年１月現在、44団体が同ネットワークに加わっています。また支援の必要性や重要性が増してきたことから、部門ごとに責任者を配置する組織改編を行うとともに2020年12月にNPO法人化し、より透明性の高い組織へとステップアップしました。

10 キロを超える食材提供

現在では（株）首都圏物流をはじめ、複数の企業がフードパントリー活動に賛同し、同ネットワークに対する輸送支援をしてくれています。これに伴い県内６か所

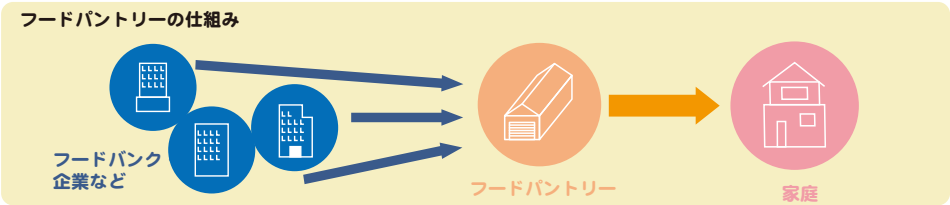
の中間拠点や各活動団体に食品が配送されるようになり、活動団体の輸送の負担の軽減につながっています。

提供される食品は、セカンドハーベスト・ジャパンや地域の企業、個人から寄付されたものです。集まるお米や乾麺、野菜、レトルト食品、冷凍食品だけでなく、子供たちを喜ばせてくれるお菓子など多岐にわたります。配付する量や内容は開催日によってまちまちですが、一家庭あたり10 kgを超えることも珍しくありません。

フードパントリー活動は食品提供だけでは成り立ちません。県内のどこにいても必要な家庭が支援を受けられるようにするため、保管や輸送にご協力いただける、企業や事業者の皆さんの協力が期待されています。

▲フードドライブから提供された食品等は屋外のワゴンで選んでもらいます

▲ある配付日の１世帯分の配付食品



●草場澄江さんの思い　NPO 法人 埼玉フードパントリーネットワーク理事長

コロナ禍で制限があるけれど、子供の居場所の意義が今まで以上に高まっています。支援が必要な家庭が孤立してしまい、地域とつながることが難しくなっている中、子供がほっとできる場所が学校や家庭以外にあれば良いと思います。フードパントリーを通じてそういった方々とつながりコミュニケーションをとることで、子供や大人の居場所活動にも広げて行きたいです。

【名　　称】NPO 法人 埼玉フードパントリーネットワーク
【所 在 地】越谷市千間台西 5-1-1 プラネせんげん台 306
【問い合せ】TEL＆FAX：048-978-5774（草場）
Email：saitama.pantry.network@gmail.com
web：https://pantry-1.jimdosite.com/

スタートはフードパントリーから
幸手子育て応援フードパントリー

▲2020年10月の配付会の様子

子ども食堂ではなくフードパントリーから

幸手市で子育て家庭を対象としたフードパントリーに取り組む市民ボランティアグループ May's garden の支援活動は、2020年から始まりました。

思いを共有する仲間と子ども食堂を始めようと、May's garden を立ち上げ、前年から情報収集していましたが、市内に他団体の子ども食堂ができたこともあり活動を再考。フードパントリーから先に始めることで、まずは食の支援が必要な子供たちとつながることを目指しました。

先行団体に学び、見学、知恵をもらって

県内でフードパントリーの活動に取り組んでいる団体から知恵やノウハウ等を学び、幸手子育て応援フードパントリーを立ち上げ、コロナ禍が影を落とし始めた2020年2月に食料配付を開始。フードバンクなどから食料提供を受け、児童扶養手当等の受給世帯と子育て中の生活困窮にある市民28世帯に配付しました。

フードドライブやフードパントリーという言葉を知っている人はまだまだ少ないものの、活動を続けるうちに活動の趣旨や意義に共感し、協力してくれる人たちが続々と現れました。地域の方々からも食料を提供いただき、63世帯へ1回につき12 kg の食支援を提供できる規模になりました。

ゆくゆくはフードパントリーと子ども食堂の両輪で地域を支えたい

パントリー活動と並行して、子ども食堂の開設準備も着々と進んでいるものの、新型コロナの感染拡大が続いており、会食を伴う活動は控えなくてはならない状況です。食堂の代わりにお弁当配付に取り組み、感染終息後には、子ども食堂をオープンし、最終的には多世代での交流ができる食堂にすることが目標です。フードパントリーと子ども食堂の両輪により子供たちを支援していく予定です。

●野川真理子さんの思い　May's garden 代表

最初は難しく考えていましたが、フードパントリーは配付対象数を自分たちが出来る範囲に設定できますので、自宅で一人でも始められる支援とも言えます。小さな規模からでも始められます。先行事例に学び勇気を持って始めてください。

【名　　称】幸手子育て応援フードパントリー
【開催日時】2ヶ月に1回　【開催場所】対象者のみに周知　【利用料】無料
【申し込み】メール・web・FAX・封書のいずれかで申し込み
【実施団体】May's garden
【問い合せ】TEL：090-9131-9386（野川）　E-mail：mays55garden@gmail.com
facebook：https://www.facebook.com/maysgarden.satte.saitama

遊びの力が、生きるチカラを育てる。プレイパーク
埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会　さぼれん

プレイパークづくりの実践者たちが応援

埼玉県冒険遊び場づくり連絡協議会、通称「さぼれん」では、県内20ヵ所以上のプレイパークをつなぐネットワークとして、情報共有や会員仲間との交流、プレイパークづくりの相談・支援・情報提供を行っています。地元にプレイパークを作ってきた実践者たちが、県内の新たな場づくりの支援も行っています。

監視や禁止事項から子供と遊びを解放

冒険遊び場＝プレイパークは、禁止事項を極力減らし、子供たちがのびのび活動できる場。木や土、火や水などの自然素材、廃材や工具などを遊び道具に、創造的な遊びが繰り広げられます。やりたい気持ちをエネルギーに、干渉されず、遊びに夢中になることで、自己肯定感や非認知能力が育つ場としても注目されています。そのルーツは北欧の「廃材遊び場」で、日本初のプレイパークは東京都世田谷区の羽根木公園にあります。

▲火を囲んでおしゃべり

子供の気持ちに寄り添う大人達

プレイパークに欠かせない「プレイリーダー」は、子供の目線に立ち、遊びの環境づくりや働きかけを行う専門家です。子供たちを見守りながら、気持ちに寄り添い、時には、家族にも学校にも言えない心の内を打ち明けられる存在にもなります。

緊急事態宣言が解除され、学校の再開後、プレイパークが再開されると、子供たちは遊びを通して溜まったストレスを発散していました。災害など危機的状況を体験した子供が、遊びを通してレジリエンス＝回復力を発揮し、心のバランスを取り戻すことは、近年世界的な常識となっています。

▲自由自在に遊べる環境づくり

３密を避けた形での子供の居場所活動を展開

コロナ禍で従来の活動ができない子ども食堂などからも、３密を避けた形で実施できる「アウトドア型」の子供の居場所として注目を集めています。

●佐藤美和さんの思い　埼玉冒険遊び場づくり連絡協議会代表

プレイパークの理念を共有することで、少しの道具とスペースがあれば、冒険遊び場は開催できます。ハードルは高くありません。始めようと考えている方には少人数でもアドバイスさせていただきます。お子さんが自由に遊べる場が身近にないなと感じる親御さんにも、遊び場づくりにぜひチャレンジしてみて欲しいです。

【名　　称】埼玉県冒険遊び場づくり連絡協議会
【問い合せ】TEL：090-7179-5436（佐藤）　E-mail：saboren2007@gmail.com
Web：https://saboren.jimdosite.com/

「入間市に常設のプレイパークを」立ち上がったママたち 冒険遊び場いるぱーく

子育てママが夢見た自然の遊び場

子育て中のママたちが中心になって活動を始めた「いるまプレーパーク作り隊」。自然豊かな入間市で、子供たちが生き生きと遊べる場所を作りたい！と願う仲間が集まり、2019年11月のワンデイプレイパークを皮切りに入間市でのプレイパーク作りがスタートしました。

コロナ禍で足踏みしたものの大盛況

取り組み始めた矢先、新型コロナの感染拡大により、約10ヶ月間、活動は足踏み状態に。2020年９月、入間市内の雑木林が広がる青少年活動センターを会場に、ようやく活動再開にこぎつけました。９月から３か月連続で「冒険遊び場いるぱーく」を開催し、毎回 100 人を超える参加者で賑わいました。

焚き火でマシュマロやウィンナーを焼いて食べたり、ロープを木にかけたブランコ遊びは、来場者に大人気。しかしプレイパークでの一番の醍醐味は、自分で考えて何でも好きな事が出来ること。もちろん何もしないでぼーっとしていてもいいのです。

▲焚火には自然と人が集まる

冒険遊び場のコンセプトの共有が大切

まだ月に１回のワンデイ開催ですが、入間市青少年課の後援を得て、今後はより多くの場所・回数の開催を目指しています。

そのためには、より多くの人々へ『遊び』の大切さと『自分で考え自分の責任で遊ぶ』冒険遊び場のコンセプトを伝えることが重要です。子供たちの笑顔溢れるプレイパークを市内に広めていく取組は始まったばかりです。

▲木工遊び。お父さんも大活躍！

●村野裕子さんと鈴木真弓さん（いるまプレーパーク作り隊員）の思い　いるまプレーパーク作り隊

プレイパーク作り隊のポリシーは『自分たちも楽しむ』こと。作り手である私たちが楽しみながら、共に楽しんでくれる人々を巻き込み、楽しさの輪を広げていく。そんな居場所作りを進めていきます。

【名　　称】冒険遊び場いるぱーく
【開催日時】月１回　土・日・祝日　いずれか
【開催場所】入間市青少年活動センターキャンプ場等
【利 用 料】無料
【申し込み】不要
【実施団体】いるまプレーパーク作り隊
【問い合せ】TEL：04-2966-2848（NPO 法人子育て家庭支援センターあいくる　村野）
E-mail：irumaplaypark@gmail.com
Web：https://irumaplaypark.wixsite.com/irupark

県内トップシェアの業務用食材卸が応援。関東食糧

桶川市に本社を構える関東食糧は、創業50周年を迎える業務用食材卸会社。地域密着で成長してきた同社は、自社の事業スキームを活かし、食材の提供に留まらず、輸送支援や食材の保管場所の提供なども実施。商品の売り上げの一部をこども食堂応援基金に対して寄付するなどの取組みも行い、子ども食堂などの子供の居場所のサポートを続けています。

こども食堂フォーラムなどの講演の場でも、「地域全体で子供を育てるためには、１企業が単体で取り組むだけでなく、例えば地域の複数の企業が連携したり、子供の居場所活動団体と企業が連携したりすることで、より大きな効果を生み出すことができます」と呼びかけるなど、企業も含め地域で子供を育てる意義を発信しています。

子ども食堂への食品納品時の様子▶

【企業概要】
関東食糧株式会社　本社：埼玉県桶川市
業務内容：業務用食品・冷凍食品酒類、米穀、厨房機器販売
従業員：240 名

まずは毎月100袋の定期的なお米の寄付から。ヤオコー

埼玉県内に店舗を構える食品スーパーのヤオコーでは、新型コロナの感染拡大に伴い、１億円の寄付と医療資材のガウン２万着を県に寄贈する医療支援を実施。

そうした中、コロナ禍で収入の不安定な家庭が増加していることや県内の子ども食堂の窮状を知り、県福祉部との情報交換などを経て、まずは９月から１年間、毎月約100袋（500キロ程度）のお米の寄贈を決め、県内の子ども食堂やフードパントリーに提供を始めています。

同社の社員が実際に子供の居場所活動の場に足を運び必要なものを把握。その後もお米を小分けするビニール袋の提供やクリスマスケーキの寄贈など、自社でできる子供の居場所支援を拡充しています。今後も地元の食品スーパーとして子供の食のライフラインへの貢献を続けていきます。

▲贈呈式の様子
◀届けられたお米

【企業概要】
株式会社ヤオコー
本社 : 埼玉県川越市
業務内容 : 食品スーパー
店舗数 :178 店舗（埼玉県内 89 店舗）
従業員 :15,241 名　※2020 年 3 月現在

１つの企業が多角的に支援
アルファクラブ武蔵野

▲子供の居場所づくりなど少子化対策の支援に関する協定を締結

アルファクラブ武蔵野は、県内で結婚式場９施設、葬儀場89施設、ホテル等３施設を運営している民間企業です。今年で設立60年目を迎え、地域への貢献事業を検討する中で、県から「こども応援ネットワーク埼玉」の取組を紹介され、「社会全体で子供を育てる」という理念に共感。

同社ならではの強みや個性を生かして何か協力できないかと検討した結果、保有している県内各地の冠婚・葬祭会場を使って「子ども食堂」や「フードパントリー」を開催することにしました。

▲結婚式場での子供食堂の開催の様子

夢を与える支援

越谷市にある同社の結婚式場を活用し、地元のボランティア団体スコップと共催で、県内初となる結婚式場での子ども食堂を開催しました。結婚式場のシェフが作ったご馳走に、参加した子供たちはもちろん保護者の方も大変喜んでいました。

▼児童養護施設入所児童の七五三体験

また、児童養護施設に入所している子供たちを対象に、七五三の記念写真の撮影会を実施。撮影した写真は、後日フォトアルバムとしてプレゼント。

このように、子供たちに夢を与え、一生の宝物になる支援を続けています。

県と支援協定を結び応援

子ども食堂・フードパントリーの開催や輸送支援等のほか、子供の居場所づくりに関する様々な取組をすすめ、11月には県と同社で『子どもの居場所づくりなど少子化対策の支援に関する協定』を締結しました。

「将来的には、自社の施設50か所で、子ども食堂を開催できるようにしたい」という構想を掲げ、活動場所に困っている団体への施設の貸出も始めています。

コロナ禍で、冠婚葬祭の自粛など企業活動が大変な状況ですが、皆が困っている時期だからこそ、地域で子供を育てるため、自社でできる子供の居場所活動を続けています。

【企業概要】
アルファクラブ武蔵野株式会社
本社：埼玉県さいたま市
業務内容：冠婚葬祭互助会を柱とした総合結婚式場・葬斎センター・多目的ホールの運営・各種イベントの企画及び実施等
従業員：1000 名
Web：https://www.alphaclub.co.jp/

市内21小学校区すべてに子供の居場所づくりを目指して活動
こども応援ネットワークPine（パイン）

地域の子供の居場所団体がつながる仕組みを

草加市社会福祉協議会が市内の子供の居場所を運営している団体に呼び掛けて開催した集まりから、それぞれの居場所活動を継続していくために、情報共有や協力・協働のためのネットワークを作ろうと誕生したのが、「こども応援ネットワーク Pine」です。

草加市内を流れる綾瀬川沿いの松並木に因み、英語の松の木＝Pine tree、の Pine（パイン）を冠して、2019年４月に市内で活動する、子ども食堂３団体、無料学習塾・放課後の居場所・プレイパーク各１団体の６団体で設立しました。

見守りから支援へ、ネットワークが連携

▲松江子ども塾（無料学習塾）

その後、文化活動団体も加わり、ネットワークは現在11団体となりました。子ども食堂に限定せず、様々な子供の居場所活動団体が集うことで、支援の広がりや多角的な視点からの課題解決、困難を抱える子供の早期発見などにもつながります。毎月定例会を開き、各団体間の情報共有を行なうことで、他の団体による支援につながるケースも出てきています。例えば不登校でプレイパークにやってくる子供について、ネットワークで一緒に考え、連携しながら無料塾や子ども食堂につなぐこともあります。

共催で取り組むフードパントリー

▲草加松原子ども食堂

コロナ禍の５月から月１回のフードパントリーを、ネットワーク団体の共催で実施しています。対象とするのは生活困窮家庭で、食料配布にとどまらず、どのような支援が可能か、どこの居場所につなぐのがいいか、子供と家族に寄り添いながら、それぞれの活動の視点から、親身に相談に乗っています。

草加市内の21小学校区すべてに子供の居場所ができることを当面の目標に、つながりを支援に変える活動が始まっています。

●浜薗浩美さんの思い　こども応援ネットワーク Pine 代表

どんなことでもいいので、まず一歩踏み出してみる。やってみたいことを、口に出して誰かに言ってみることが大事だと思います。私自身、草加市内で子ども食堂とフードパントリーを運営しています。団体名のマイカはキラキラ光る雲母の英語。子供たちと一緒に輝きましょう。

【名　　称】こども応援ネットワーク Pine
【問い合せ】TEL：080-9806-9694（こども応援団マイカ：浜薗（はまぞの））
E-mail：micamica2018@icloud.com
Web：https://www.facebook.com/kodomopine/

こども応援ネットワーク埼玉

こども
応援ネットワーク
埼玉

埼玉県が貧困の連鎖の解消に向けた社会貢献活動等を主体的に行う団体・企業や個人とともに立ち上げたネットワークです。会員の皆さんの得意な分野を生かし、自分たちでできることを自分たちで考えて実行することによって、すべての子供たちがチャンスと希望を持って素敵な大人になれるような社会を目指しています。

県のホームページや Facebook、「こども応援ネットワーク埼玉」のポータルサイトなどで、会員の取り組みを積極的に発信するとともに、活動に有益な情報を提供し、各種リソースのマッチングも行っています。

趣旨に賛同し、以下の①から⑩の社会貢献活動の一つ以上を実施する団体・個人なら、活動予定も含めて登録でき、現在約 460 団体が登録しています。
詳細・登録は、「こども応援ネットワーク埼玉」ホームページを参照下さい。

①金銭の寄付
②子ども食堂等の子供が安心できる居場所づくり
③食材や物資提供のほか、様々なサービスの提供
④体験活動の機会の提供
⑤学習支援の機会の提供
⑥ボランティア活動
⑦親子への支援
⑧場所やスペースの提供・フードドライブ BOX の設置
⑨広報・PR 活動
⑩その他社会貢献活動、公益活動

ホームページが新しくなりました

https://kodomoouen.pref.saitama.lg.jp/

こども応援ネットワーク埼玉のホームページが新しくなりました。子供の貧困の実態、県内の取組みや会員情報、マッチング情報のほか、県内の子ども食堂・学習支援教室・プレイパークなどを市町村ごとに調べられる「こどもの居場所マップ」、そして「フードパントリー・マップ」も加わりました。子供たちの支援にご活用ください。

Facebookで最新情報を提供しています

https://www.facebook.com/kodomoouen.saitama

埼玉県民だけでなく全国の子供の貧困問題に取り組む関係者約 7,000 人がフォローする「こども応援ネットワーク埼玉」の Facebook。有益な最新情報を日々発信していますので、ぜひ「いいね」ボタンを押してフォローしてください。タイムリーな情報をお見逃しなく。

埼玉県　子供の居場所づくり推進事業

こどもの居場所づくり 事例集

埼玉県のマスコット
コバトン　さいたまっち

彩の国 埼玉県

●発行者・問合せ●
埼玉県福祉部少子政策課　こどもの未来応援担当
〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1
TEL:048-830-3348　FAX:048-830-4784　Email:kodomoouen@pref.saitama.lg.jp
●発行日●
令和 3 年 3 月
事業受託者
特定非営利活動法人 新座子育てネットワーク
〒352-0017 埼玉県新座市菅沢 1-4-5 2 階
TEL:048-482-5732　FAX: 048-482-5731　Email:saiibasho@ccn.niiza-ksdt.com